

学術集会会場を仮想都市・被災地域に見立てた
救急・災害医療情報プラットフォーム構築の試み
Virtual emergency/disaster medical Intelligence Platform
参加協力をお願い（会員各位）

日本集団災害医学会 会員 各位

1. プラットフォームご利用のお願い

救急医療ならびに災害時の医療の実践に際し、多職種・多機関の多面的な協働を常に可能にするためには、質の高い強固な情報共有システムが不可欠です。そこで私たちは標記のプロジェクトを立案し、今回の第23回日本集団災害医学会総会・学術集会の会場（パシフィコ横浜）を仮想被災地域に見立て、7つの企業と協働してIoTを駆使した情報プラットフォームを試作いたしました。プラットフォームの上には、会場内の情報（各会場の混雑度や人員・物資情報など）や一部スタッフの生体情報が集積されていて、学会に参加している皆さんがご自身のスマートフォン等を使って、リアルタイムにこれらの情報を閲覧できることを目指しました。

今回共有するひとつひとつの情報は他愛のないものですが、これらを災害時に置き換えて考えてみます。例えば講演会場を「避難所」に、お弁当を「支援物資」に、一部スタッフの生体情報を「要救護者の生体情報」にそれぞれ置き換えることによって、本プラットフォームの有用性が検討でき、改善へのヒントを見つけられると思っています。このような趣旨をどうぞご理解いただき、どうぞ本邦初のプラットフォームをご利用ください。ともに未来を創っていきましょう。

【参考1】プラットフォームでの取り扱い情報一覧

[1]各会場の混雑度情報、[2]生体情報、[3]お弁当配布情報、[4]トイレ空き情報

【参考2】プラットフォームへのアクセス方法：<http://www.vip-project.qq-nttdata.jp/>]

2. 位置情報取得に関するご協力のお願い

本プラットフォームでは皆さんがお立ち寄りされる会場の選定に少しでも役立てていただくために、各会場の混雑度情報をご提供する予定です。混雑度情報は皆さんの位置情報を広く収集することでより精度が高まるため、ぜひ皆さんに位置情報の発信にご協力をお願いしたいと考えています。

つきましては学会当日に総合受付にて位置情報の発信デバイスを配布しますので、本プロジェクトの主旨にご賛同頂ける方はデバイスの装着にご協力をお願いします。もちろん、こちらのデバイスを身につけることにより皆さんの個人情報が収集されることはありません。詳しくは[別添ファイル](#)をご覧ください。学会当日に運営スタッフにお尋ねください。

第23回日本集団災害医学会総会・学術集会
会長 森村 尚登